

令和 2 年度 城山西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心をもち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで、おもいやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成 17 年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ、伝統ある学校として存続できている。

今年度も児童数を維持するために、地域連携をキーワードに、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトにした本校の特色ある教育活動を推進する。

教職員の積極的な学校経営への参画のもと、第 2 次宇都宮市学校教育スタンダードの「誰もが安心して学べ、活力あふれる学校」の実現を図るために、城山地域学校園の小中一貫教育における教職員や児童・生徒の交流を生かしながら、「**自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒の育成**」に努めていきたい。

本校の具体的な取り組みとしては、「一人一人を大切にした授業」を中心に、5 つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通じた食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ、以下の 3 点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

- (1) 「会話科」の継続・充実に努め、英会話の時間や外国語活動、ことばの時間で培う表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるように努める。特に外国語教育は、中学校への学びの連続性を持たせる指導について研究を推進する。
- (2) 食農体験を基にした「食育」を推進し、地域の協力を得ながら、食と農に関する学習活動や体験活動を展開する。給食農園の食材や地産地消の食材を給食に取り入れ、教職員・児童全員で食する給食の時間を有効利用する。
- (3) 妻木律子先生と連携した「体幹を鍛える運動」や各種運動検定の充実により「**体力の向上**」を図り、**運動を楽しませることを通して生涯体育につなげていきたい。**

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに、業務の効率化を図り、労働時間の適正化に努める。(学校運営の適正化)
- (2) 児童一人一人のよさを認め励まし、自己肯定感を育み、居がいのある学校・学級づくりに努める。(学級経営の充実)
- (3) 全教職員の共通理解のもと、児童・保護者と教職員との信頼関係を深め、情操豊かな教育環境と縦割り班における異学年とのかかわりを大切に、他人を思いやるころ豊かでたくましい児童の育成に努める。(豊かなこころの育成)
- (4) 学力の基礎・基本である読む力・書く力・聞く力・話す力の確実な定着を図り、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学び自ら考える力の育成に努める。(学習指導の充実)
- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。(体力向上と保健安全教育の充実)
- (6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。(魅力ある学校づくりの推進)

[城山地域学校園教育ビジョン] ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針（うつのみや“いきいき学校”プラン-子どもに夢，学校に活力，地域に絆-・第2次宇都宮市学校教育スタンダード・宇都宮元気っこプロジェクト）等の示すところに従い，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の生きる力を育むこと・成長するための基盤を培うことを目指し，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること，問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を育むことの双方のバランスを考慮して教育課程を編成する。また，家庭での学習習慣が確立できるように家庭との連携を密に図るようにする。
- (3) 道徳性の育成は，「特別の教科道徳」を要として学校教育活動全体を通して行うとともに，家庭・地域社会との連携を深め，児童の発達段階に考慮して適切な指導が行われるよう，教育課程を編成する。また，指導にあたっては「いきいき栃木っ子3あい運動」や「宮っ子の誓い」を通して道徳性が培えるよう工夫する。
- (4) 健やかな心身の育成を図るために，体育・健康に関する指導または学校教育活動全体を通して行うとともに，健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育て，児童の心身の調和的な発達が図れるよう教育課程を編成する。
- (5) 創立145年の歴史と伝統と小規模特認校16周年を迎える実績と特色を踏まえ，児童の実態や学校の特色，地域のもつ豊かな教育力を生かして，家庭や地域社会との連携を図りながら，学校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (6) 保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深め，連携及び協力が推進できるように学校運営の状況に関する情報を提供するように努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】
- ・職員研修を充実し，教職員の資質向上の推進
 - ・学校・家庭・地域・行政と一層連携し，小規模特認校としての開かれた特色ある学校づくりの推進
- 【学 習 指 導】
- ・確かな学力を身に付け，共に学びあう子どもの育成
 - 家庭学習の習慣化（宿題プラス1）
- 【児 童 生 徒 指 導】
- 規範意識を身に付け，自分のよさを生かしながら自信をもって行動する児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- ・健康・体力の向上を目指し，進んで活動する児童の育成
 - 中学校進学をスムーズに行えるよう，中学校の部活動を見学する機会の確保
 - 集団行動や各種検定など中学校での活動を見据えた，3小学校で共通した取組

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目(R2)	主な具体的な取組	方向性	評価
	A1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に話をしっかり聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに，基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。 ② 児童の主体的な学びとなる授業展開を工夫する。 ③ 会話科の授業を充実させ，よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。		【達成状況】 【次年度の方針】

目 指 す 児 童 の 姿	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。 ② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切にし、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。 ③ 会話科(ことばの時間)等の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。 ④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。 ② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。 ③ 学級だけでなく週に1度の一斉下校や集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動を継続する。 ② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整えとともに、あいさつの大切さを伝え、広げていく。 ③ 定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、家族とのあいさつの大切さを伝えていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。 ② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。	【達成状況】 【次年度の方針】

A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「元気っ子生活習慣チェック」を活用し、基本的生活習慣の定着を図る。 ② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。 ③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもちそれに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。 ② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様なかわりを通して、他者と協力・協働していくことのよさに気付かせ、社会に参画していこうとする心を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。 ② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 社会科を中心に生活科や総合的な学習の時間に、宇都宮市や城山地域の、地理や産業・文化財などについて学ぶ機会を充実させる。 ② 宇都宮学の副読本を活用して家庭とも連携しながら、自分たちの住んでいる地域や、宇都宮のよさを実感できるよう指導していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 調べ学習や発展的な内容の学習の時間において、ICT機器や図書資料を有効に活用した活動ができるよう、指導を充実させる。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・ふれあい給食などを通して、高齢者との交流を、年間を通して深めていく。 ② 活動の後や「感謝の会」などにおいて、協力して下さることへの感謝の気持ちや、いたわりの気持ちを育むようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。 ② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを通して、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。 ③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B1 体力の向上を目指し、進んで活動している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導を工夫している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする。 ② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。児童の実態を次年度に引き継げるよう情報の共有の仕方を工夫する。 ③ 地域学校園の課題である「筋持久力」を向上できるよう、サーキットトレーニング等を通して体力の向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
目指す学校の	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。 ② 家庭とも連携が図れるよう、適切な保護者対応に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	① 児童集会等でいじめは絶対許されないことであるという指導を行う。 ② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。 ③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたるようにする。 ④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、いじめアンケートの結果など、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。 ② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。 ③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。 ④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳しく記録に残し、児童理解のために有効に活用していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握する。 ② 必要に応じて、日本語指導や学校生活の適応への支援を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。 ② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきにに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にした指導に努める。 ② 朝の学習や昼の英会話タイムを2人体制で行い、一人一人のつまずきにに応じた指導を行う。 ③ 分かる授業の実現に向けて、学習のめあてや振り返りを大切に扱う。	【達成状況】 【次年度の方針】
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。 ② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。 ② PDCAサイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童(5・6年)・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上	① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。 ② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域コーディネーターを中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。 ② 地域コーディネーターを中心に学校を支援するボランティアを募り、<u>学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。 ② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① ICT機器や実物投影機・パソコンなどや、児童が活動で使う図書資料等を準備する。 ② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるよう、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。	【達成状況】 【次年度の方針】
B2 学校は、読書活動を積極的に推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味を持つように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせなどを行う。 ② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。 ③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。	【達成状況】。 【次年度の方針】

本校の特色・課題等	B3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画について、必要に応じて内容の精選・検討をしていく。 ② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。 ③ 「英会話の時間」・「外国語活動」については、教科化による、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域コーディネーターを中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。 ③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	① 給食農園で地域の方との連携を深め、活動を充実させることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。 ② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。 ③ 清掃時に学年ごとに給食農園の草取りや収穫を行うことなど食農体験を通して、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。 ④ 食育だより・給食だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕